
御狐様のIS日和

あいあむウィーゼル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御狐様のIS日和

【Nコード】

N7293Y

【作者名】

あいあむウィーゼル

【あらすじ】

女性にしか動かせないパワースーツ「インフィニット・ストラストス」、通称IS。そんな中で世界初の男性IS操縦者、織斑一夏が発見されたというニュースに世界が揺れる中、女神達の学舎に1人の少年が現れる。彼の名は神崎玖楼。『世界最強』の高校教師であつた……。これは『魔法先生ネギま！ 御狐様が見てる』の逆転作品です。ついでに言うと、これは作者が書きたいと思った自己満足要素が詰まっておりますので、タグを見て「無理だ」と判断された方はお帰りください。

第1話：新世代型“疑似”子供先生、ここに復活（前書き）

えー、前置きもなくやっちゃいました。

「御狐様」のIS版。つまり、逆転版です。

御狐様ではネギまを舞台にしましたが、こっちでは逆です。ISを舞台に頑張って貰います。

玖楼のイメージはあっちと同じですが、その最強さがパワーアップしております。

ちなみに、私がイメージする最強教師は「等身大の光の巨人」と称されるあの人です。あそこまで何もかも力尽くでぶっ飛ばしはしません、それくらい強いのでご注意を。

第1話：新世代型“疑似”子供先生、ここに復活

やあ、ボクは神崎玖楼。ごく普通の専業主夫だ。

「そなたを『普通』と形容すれば、間違いなく常識が破綻するじゃろうな」

うっさい、そこ黙れ。

ソファに寝転んだままの妻、瑪瑙にそうツツコみつつも、手を休めない。

ちなみに、今日のご飯は鶏ムネ肉の竜田揚げ。

ムネ肉は安いんだけど、パサついて美味しくない。そこで調理の前にサラダ油につけ込んでおくのがポイントだ。こうする事でパサつきが無くなる。

醤油とお酒、それから擦ったんにくを合わせたタレで下味を付け、小麦粉をまぶしてカラッと揚げる。

「ほら、出来たよ」

「うむ」

瑪瑙が立ち上がると、椅子に座る。

ボクも出来上がったばかりのご飯をテーブルに並べ、同じく椅子につく。

「ところで玖楼。就職するというのは本当か？」

「耳が早いね」

就職というよりも、復職に近いかな。

数年前まで教職に就いていたボクだけでも、数年前のとある事件で怪我をして以来、療養中。

怪我自体はもう癒えているから、復帰しようと思えばいつでも復帰出来るわけだけど。

もちろん年単位で遠ざかる事は分かっていたから、前の職場には自主退職という形で辞めた事になっている。

「最初は断ろうと思ったんだけど、内容が内容だからね。それに轡木さん直々に頼まれちゃったし」

「……………轡木じゃと？」

「そ、轡木十蔵さん」

IS学園の学園長……もちろん、表向きの学園長は轡木さんの奥さんが務めている。

普段は気のいい用務員として表に立っているから、本当は彼が学園のトップにいる事を知っているのは、教員や関係者ぐらいって事だ。

で、その轡木さんがこの前訪ねてきたんだけど……。

「復職、ですか？」

目の前の男性、轡木さんから持ちかけられた話に、思わず尋ね返してしまう。

「ええ。お願い出来ませんかね」

「……………しかし、何で自分なんですか？ 言っちゃなんですけど、IS学園でしょう？ だったらISに携わる人間……………うちの妻のよ
うな人間がいいはずです」

……………正直に言うただけど、瑪瑙は絶対人に物を教える立場には向
かない。

ボクは確かにISの知識は多少あるけども、実際にISに乗れるわ
けではない。

だから教えられる事と言えば、普通の中学で教えてるようなカリキ
ュラムぐらいで……………。

「だからこそ、ですよ。……………IS学園はIS操縦者を育成するた
めの教育機関です。教育内容もISに関連する事に偏ってしまいま
す」

「……………まあ、それでちょっと前に叩かれてましたしね」

基礎学力の低下。IS学園に関する事だけでなく、全国的にも問題
となっている。

特にIS学園は今、轡木さんが言った通りに教育内容が偏っている
ために、普通校と比べて基礎学力の平均が低い。

でも、その事にしただってわざわざこうやって主夫してるボクを引っ張り出さなくても、そっち方面でやり取りして普通教師を回してもらえばいいはず。

「……………要するに、それだけじゃないって事ですか？」

「相変わらず、察しがいいですね」

「いえいえ」

にこやかに応対しつつ、轡木さんは何かのファイルを取り出した。

どうやらこれを読んで欲しいらしい。受け取ると、それに挟まれていた書類に目を通す。……………あれ、この子って。

「織斑一夏……………織斑千冬君の弟さん、ですよね？」

「おや、ご存じでしたか」

「元教え子の家族くらい憶えてますよ。それに彼女はちょっと特殊でしたから」

織斑千冬の名を知らぬ者は、この世界でも少ないだろう。

ISの国際大会『モンド・グロッソ』。その第1回大会で、たった1本の剣を手に、世界の頂点へと上り詰めた少女の名前だ。

世界最強とまで呼ばれた彼女だったが、3年前の第2回大会、個人競技の決勝戦を突然放棄。その後、現役から引退したと聞いている。実を言うと、ボクは彼女の中学時代の担任だったのだよ。驚いた？

「しかし、どうして一夏君が出てくるんです？」

「先日、IS学園の入学試験が行われました。その場で彼は試験用に運び込まれていた機体を起動させたのです」

「……………すみません。もう1度いいですか？」

「織斑一夏君は、世界で初めて発見された男性IS操縦者、というわけです」

……………おお。もう読めた。

内心ため息を吐きつつも、もう1つの仕事について口にする。

「護衛ですか」

世界初の男性IS操縦者となれば、世界中からの注目を浴びる。

そうなれば、今後の彼の生活が脅かされる。どっかの研究機関に送られてホルマリン漬けか、モルモット扱いか（まあ、そんな事した

ら織斑君（姉）の怒りを買っただろうから、表立って動いたりはお出来ないと思うけども）。

少なくとも、今までの通りの平穏な生活は出来なくなる。そのため救済策がIS学園行きというわけか。

「本当なら、生徒に潜り込ませる事が出来ればよかったのですが……」

「思春期の男子には辛いところがあるでしょうね」

同年代の女生徒に囲まれ、冷や汗を流す彼の姿。

リアルにそれが想像出来てしまい、思わず苦笑してしまう。

世の男性方からすれば、リアルでハーレム状態なので羨ましいにも程があるだろう（女子校の実態なんてそんなもんじゃないけど）。

それでさらに女生徒を側に置くというのは問題がありすぎる。主に彼の精神面について。

「それで自分に白羽の矢が立ったわけですね？」

「ええ。腕の立つ人物で、尚かつIS学園に入る事の出来る男性……該当するのは君くらいでしたから」

そりゃあね、昔っからちよつと荒っぽい事とは縁があつたから、腕には自信がある。

……でも、それだつたら轡木さんがやればいいじゃないですか。

「いえ、私も年ですからね。さすがに昔と比べると思つように身体が動かないわけですよ」

年は取りたくないものですね、と言いつつもお茶をすすする轡木さん。

嘘つけ、と言いたくなつたけども、お茶と一緒にそれを呑み込む。

画面の向こうのみんな、考えた事は無いか？ どうしてこの人が、護衛も付けずにボクの家にまで1人でやってきたのか。

確かに、この人が実質的なIS学園の経営者だという事を知っている人間は限られる。でも、知っている人は知っている。当然、狙われたりする可能性だつてある。

それなのに何故、護衛を付けないのか。その答えはシンプルイズベスト。「必要無い」からだ。

たかが暗殺者の1人や2人、この人なら……轡木十蔵なら、赤子の手を捻るようにのしてしまうだろう。

「まあ、それはさておき、どうでしょうか？」

……復職する事自体はそこまで問題じゃない。

今のボクはあくまで専業主夫だし、復職出来ないという状況ではない。

でも、復職せずともいい。実際、瑪瑙は高給取りだから生活には困っていないから。

要するに、「どちらを選ぶにしても問題は無い」のだ。

(…………でも)

実はまだ、引っかかっているところがある。

織斑一夏君がIS学園の入試会場にて、ISを動かしたという事実。資料によると、同日に藍越学園の入試も行われており、どうやら彼はそっちを受験するはずだったようだ。

単に会場を間違えて、それでたまたまISが設置されていた部屋に迷い込み、たまたまISに触れてしまった事が発端。そう考えれば楽だけど、そこまで偶然が重なるものなのか。

そもそも、IS学園の受験者は女性だけ。同年代の男性がいたら、受験者なりスタッフなり誰かが「会場間違えてますよ」と声をかけるはず。それにISが保管されているとなれば、警備だって整って

いる。15歳の少年が近づけば、誰だって不審に思う。

そしてISを起動させたのがミソだ。たまたま動かせる“何か”があったとも考えられるが、他にも『誰かが細工していた』とも考えられる。

これらの状況を作る事が出来る存在に、ボクはたった1人だけ心当たりがあった。

「……………分かりました。その話、お引き受けします」

「……………なるほど、あのウサギか」

竜田揚げを口へと運びながら、そう呟く瑠璃。

彼女がウサギと形容する相手、それはISの生みの親……篠ノ之東博士の事だ。

ISの中枢とも言える「ISコア」は、今も尚ブラックボックスとされており、完全に解析されていない。

何故、男性には動かせず、女性にのみ動かせるのか。

ISコアにこそ、その謎があるとされているが……真相を知るのは篠ノ之君だけ、というわけだ。

「織斑一夏君の事が全て彼女の仕業かどうかは分からないけど、疑わしいのは事実。……………それに」

「それに？」

「……………うつん、何でも無い」

まあ、轡木さんの話を受けたのはその事だけじゃない。

教育者として、やっぱり学力低下問題は見過ごせないってところもあった。

自分1人でどうなるか分からないけど、無為に日常を過ごしてるくらいなら、少しくらい職場復帰してみようと思ったわけだね。

「それに、そろそろ彼の事も隠しきれなくなってくるだろうし……」

委員会からマスコミに圧力をかけているとは言っても、限界がある。

人の口に戸は立てられない。どこか隔絶された場所ならともかく、判明した場所は一般人も踏み入る入試会場。

ボクの私見だと、明日明後日辺りには報道されるんじゃないかな？
どちらにせよ準備自体は整ってるわけだし、抑え込む必要もそろそろ無くなってくるのだから。

「……………しかしIS学園となると、そなたは向こうに住み込む事になるじやろう？」

「まあ、そうなるかな」

学生寮に住むわけにはいかないし、適当なところにテントでも張ろうかと思っただけ。

さすがに、家から通うにはちょっと遠すぎる。片道何時間かかると思う？

そんな事を考えていると、突然瑪瑙が悲痛な叫びを上げる。

「妾はこれからどうやって生きてゆけばいいのじゃ！？ 誰に食事

の支度してもらえばいい？」

知るか。

……なおその後、どうやら職場に住み着いたらしく、定時連絡の時には上の娘と下の息子の引き繋った顔を見る事となった。

とりあえずごめん。果てしなくごめん。

第1話：新世代型“疑似”子供先生、ここに復活（後書き）

IS関連で考えてたネタ

1、ISで復讐モノ

主人公が「白騎士事件」で家族を亡くし、復讐を誓うお話。
既に似た話がありますし、書きちゃうと矛盾する部分が出てくる＋よくあるアンチ物になっちゃうかなと思ったので、書くのをやめました。

2、IS×仮面ライダーOOO

一夏を映司のポジションに置いて、原作開始の1年か2年前にオーズとして戦っていた過去捏造モノ。

誘拐事件がきっかけで、映司と似た様な「乾いた」状態になり、どことなく千冬ともギクシャクした関係が続いていた中でアंकに遭遇。已む無くオーズに変身して戦う事に。

鴻上ファウンデーションがオーズのシステムを再現したISを開発。白式でなくそっちに乗る事に。

ヒロインは鈴、もしくは日奈。後に打鉄式をバースのシステムで完成させる話を考えてました。

仮面ライダークロスだと需要があるか不明だったので、ネタとして1話だけ書いたものが存在してます。

3、「BAD END」を練り直した話

誘拐事件がきっかけで、千春の影の人格「千影」が誕生。

千影は「千春を傷つけた」千冬達を嫌うが、千春が抱く千冬達への愛は変わらない。

オリキャラを減らして、束を若干常識人化。束を千春と千影の理解者に。

これはこれで面白いかな〜と思ってますが、やっぱり無理があるかな〜と思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7293y/>

御狐様のIS日和

2011年11月21日18時01分発行